

## 大学教育学会 課題研究活動報告書 (2023 年度)

提出日 2024 年 3 月 25 日

報告者 吉永 契一郎

課題研究テーマ	SDGs の観点から考える男女共同参画・教職協働・働き方改革
代表者 (所属)	吉永契一郎 (金沢大学)
メンバー (所属)	奈良雅之 (目白大学)・前田ひとみ (目白大学)・福島真司 (大正大学)・ 上田忠憲 (大正大学)・ダガンさかの (金沢大学)・清水栄子 (追手門学院 大学)・私市佐代美 (武庫川女子大学)・上島洋佑 (新潟大学)
担当理事	飯吉弘子 (大阪公立大学)
コメンテーター (所属)	中井俊樹 (愛媛大学)
実施した活動	2月6日 研究会 課題研究シンポジウム報告書作成 (『大学教育学会誌』第45巻 第1号) 5月26日 研究会 6月3日 大会ラウンドテーブル実施 6月23日 研究会 7月26日 国際基督教大学学務課訪問調査 (吉永・上田) 7月27日 研究会 9月13日 研究会 9月21日 近畿大学働き方改革支援センター訪問調査 (清水・私市) 10月10日 研究会 科学研究費補助金申請 (結果:不採択) 11月12日 課題研究集会シンポジウム 11月27日～1月18日 教職協働インタビュー調査 (前田・奈良・福島) 2月29日 大会ラウンドテーブル申請
成果	<p>2023年度大会ラウンドテーブルでは、会員対象のアンケート調査の結果に基づき、以下の傾向が見られることを報告し、議論を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸福度は、正規雇用よりも非正規雇用、若手よりも年配者、私立大学よりも国公立大学、職員よりも教育の方が高い。</li> <li>・育児や介護について、支援制度を利用したことがあるのは、それぞれ、25%、10%に止まる。</li> <li>・多くの回答者が家庭生活と仕事とのバランスに不安を抱えている。</li> <li>・男女共同参画については、ロールモデルの発信や学生への教育が大切である。この点において、研修機会も増えている。</li> <li>・教職協働については、地位や待遇よりも、敬意・理解・雰囲気・フラットな立場を望んでいる。これは、国際的にみても、日本人に特有な傾向である。</li> <li>・教職協働が進んでいるのは、入試業務である。</li> </ul> <p>2023年度課題研究集会では、大会ラウンドテーブルを受けて、大学職</p>

	<p>員の働き方に焦点を当てた。シンポジウムでは、ゲストとして、大学の内外から、その様子に詳しい倉部史記氏、喜久里要氏を迎えて、研究メンバーと討論を行なった。その結果、明らかになったことは、業務の高度化や多様化に伴い、大学職員の抱える課題も、メンバーシップ型からジョブ型への移行という社会の動向を反映しているということである。</p>
<p>残された課題</p>	<p>単に、大学職員も、メンバーシップ型からジョブ型への移行するのであれば、一般企業との違いはない。しかしながら、SDGsの観点では、経済的な発展に還元されない平等性や公平性の理念の追求も含まれており、これらの価値観を実現することも大学の使命である。この点に関して、次回の大会ラウンドテーブルでは、教職協働に関するインタビュー調査の結果、女性活躍支援を行なっている大学の事例を参考に、議論を行う。</p>